

税制調査会（第27回総会）終了後の記者会見議事録

日 時：平成27年11月 6 日（金）16時10分～

場 所：財務省第3特別会議室（本庁舎4階）

○記者

よろしく申し上げます。

まず、会長から今日の議論の総括をお願いします。

○中里会長

今日は前回30日に引き続いて2回目の起草会合ということで、個人所得課税や資産課税に関する論点の整理をどのように行うかという点。個別税目を検討するに当たって前提となる経済社会の構造変化の実像についてどのように整理するかという点。この二つについて議論を引き続き行いました。

本日は、前回の議論で既に委員間で大筋のラインについて共有されていたこともあって、個別の表現などについて意見交換をし、調整しました。

前回と今回の議論を踏まえると、大筋の流れについては、第一に経済社会の構造変化。この点については、家族や社会のセーフティネット機能が低下し、生活基盤が脆弱化するリスクが生じているのではないかと。あるいは生産年齢人口の減少や若者の不本意非正規労働などを通じたヒューマンキャピタルの形成の阻害などにより、成長基盤が損なわれる恐れが生じているのではないかと。そのような点に対応するために、結婚したい人は誰もが結婚し子供を産み育てられる。そのような生活基盤を希望する人には確保する。自らのライフスタイルやニーズに応じて働き、そしてどのような働き方であってもその努力が報われるようにする。所得・資産等の経済力を重視して、再分配機能を有する諸制度を再構築するということでしょうか。そのようないわば成長基盤と生活基盤、この両方を同時に再構築する視点が重要になるのではないかと。このような意見に集約されてきたのではないかと思います。

第二に個人所得課税につきましては、結婚して子供を産み育てようとする若年層・低所得層に配慮するための所得控除方式の見直し。働き方の多様化や家族のセーフティネット機能の低下を踏まえた人的控除の役割。老後の生活に備えるための自助努力に関連する諸制度のあり方。このようなコンセプトで議論を整理していったらどうかという意見で集約されたのではないかと思います。

さらに第三に資産課税につきましては、相続税の有するところの資産再分配機能の適切な確保。老後扶養の社会化の進展を踏まえた遺産の社会還元。そして資産移転の時期の選択により、中立的な制度の構築といったコンセプトで議論を整理していったらどうかという意見に集約されてきたのではないかと思います。

この2回は皆様に非公開で行いましたが、次回は公開の総会の形式として論点整理の取りまとめをできれば行いたいと考えています。

○記者

次回に原案のようなものを示されて、それで委員の意見を取りまとめて中間整理とするという段取りでよろしいでしょうか。

○中里会長

確定ではありませんが、今日いただいた意見を受けて修文等を行って、その上できちんとした草稿を作って、次回に了が出ればそれでという希望をしています。

○記者

ありがとうございます。

もう既に原案は今日出て、それを修文したものが次回に出るという理解でよろしいですか。

○中里会長

かなり順番を動かしたり、様々なことをすることになりますから、あれを原案と呼べるかどうか分かりませんが、たたき台は出て、それを今後直していくということです。

○記者

大きく変わるところはどこでしょう。

○中里会長

順番や表現など、割と内容自体というよりもテクニカルな、読者の方にこうした方がより分かりやすくなるのではないか、さらに皆様の先輩から、これを見て記者の方が記事を書きやすいようにしてくれというような意見も出ました。確かに記事を書きやすいということは分かりやすいということですから、そのような方向を目指して順番を入れ替えたり、そのようなことを考えていこうと思っています。

○記者

そうすると、この論点整理までの過程、政府税制調査会の開催は次回で一区切りと置いて良いのでしょうか。

○中里会長

次回了が出れば、そのようになれば良いと思っています。

○記者

ありがとうございます。

回りの先の話で恐縮ですが、取りまとめをした場合、安倍首相に提出するというような形になるのでしょうか。その辺りはどのようになるのでしょうか。

○中里会長

今行っていることは、来年の中期答申のための客観的な準備作業ということになりますから、直接官邸に出向いてお渡しすることにはならないと思います。ただ当然、取りまとめされたものは官邸の方に行くと思いますから、それは私がお持ちすることとはまた別の話です。

○記者

いかがでしょうか。

ありがとうございました。

○中里会長

どうもありがとうございました。

[閉会]